


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)


 No.38

## ● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：特定治療支援事業の見直しと生殖補助医療の法整備の動きから	1
・これから行われる学会・研修会情報（2014.7～2014.10）	2
・第12回日本生殖看護学会学術集会のご案内	3
・勉強会開催のご案内	4
・勉強会開催報告（関西地区）	4
・勉強会の支援と助成	5
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら・・・	6
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.16	6
・ニュースレター電子化に関するアンケートの集計結果と今後の方針	7
・理事会報告	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8


**特集：特定治療支援事業の見直しと**
**生殖補助医療の法整備の動きから**

日本生殖看護学会 理事 森 明子

2004年から開始された特定不妊治療費助成事業に対し、2013年「不妊に悩む方への特定治療支援事業等のあり方に関する検討会」が開催され、私は委員として参加しました。

事業対象施設として指定を受けている医療機関は2013年現在570施設。助成実績は年々増加し、2012年には134,881件（速報値）となり、開始時の7.6倍になりました。助成を受ける者の年齢が上昇し、40歳以上の人が3割以上（40-44歳28.8%、45歳以上3.8%）を占めました。43歳では2回に1回（50%）流産し、50回に1回（2%）の生産分娩率でした。実際の助成回数は3回までの人が多数であり、累積分娩割合は6回までは増え6回を超えると緩慢になり、90%は6回までに妊娠・出産に至っていることがわかりました。一方、年齢と産科合併症・周産期リスクとの関連も検討されました。

検討会では、(1)医療機関の指定要件、(2)対象範囲、(3)医療機関に関する情報公開、(4)妊娠や不妊に関する知識の普及啓発、相談支援について見直しました（厚生労働省「不妊に悩む方への特定治療支援事業等のあり方に関する検討会」報告書 平成25年8月23日 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000016911.html>）。2014年度から移行措置を講じたうえで、すでに事業変更されています。

とくに看護師にとって「年間治療件数500周期以上の施設には、日本看護協会認定の不妊症看護認定看護師又は母性看護専門看護師がいること」が望ましい要件として明記されたことは大きな進展でした。今後は、その結果として患者さんに対して今以上により成果を示すことが重要なポイントになっていくでしょう。

また、医療機関に関する情報公開、妊娠や不妊に関する知識の普及啓発においても、看護師の果たす役割は大きくなったと考えるべきです。勤務先のホームページは、患者さんの実際の選択に役立つ形で検査・治療に関する情報が公開されていますか？不妊症看護認定看護師としての顔、活動が見える形で紹介されていますか？もし答えがNOであれば可能な限り即、行動を起こしてください。不妊専門相談センターの活動への協力、職場・学校での適切な知識の普及・理解の促進における参与の好機をぜひ生かしてください。

そして、43歳未満を対象とし、6回（40歳以降で開始した場合3回）と範囲を設けたことで女性やカップルの妊娠への意識が変わってくる可能性、受療者の高齢化への一定の歯止めとなる可能性が考えられ、看護師の説明や治療の意思決定への対応変化が予測されます。

さらに新たな動向は、2014年3月、自民党プロジェクトチームの会合にて、生殖補助医療法案のたたき台が示されました。これに対し日弁連や支援者、当事者など複数の組織団体がそれぞれ要望書や提言を発表しています。今後、法制化の動き、また法律の内容がどのような方向になっていくのか、会員の皆様におかれましても引き続き注目していただきますようお願いいたします。

## これから行われる学術集会・研修会情報（2014年7月～10月）

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
7月	6月30日 ～2日	ヨーロッパ生殖医学会： ESHRE（第30回）	ミュンヘン（ドイツ）	<a href="http://www.eshre2014.eu/">http://www.eshre2014.eu/</a>
	31日～1日	日本受精着床学会 （第32回）	ハイアットリージェン シー東京 （東京都新宿区）	<a href="http://jsfi32.umin.jp/">http://jsfi32.umin.jp/</a> （株）コンベックス E-mail：jsfi32@convex.co.jp
8月	9日～10日	日本女性心身医学会 （第43回） 「ライフステージとスト レス」	京都ホテルオークラ 京都府立医科大学 広小路キャンパス （京都府京都市）	京都府立医科大学大学院女性生涯医科学 （産婦人科学教室） 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る 梶井町465 TEL：075-251-5560 FAX：075-212-1265 Email：info@43jspog-kpum.jp
9月	13日～14日	日本母性衛生学会 （第55回） 「母性への新たな健康支 援チームで取り組もう キュアとケアの融合」	幕張メッセ国際会議場 （千葉県千葉市）	千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野内 〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL：043-226-2412 FAX：043-226-2414 E-mail：55jsmh2014@gmail.com
	13日	不妊症看護認定看護師ポ ストコース講座 「第3者の関わる生殖補 助医療－その課題と法制 化をめぐる」	ナーシングアート 大阪会館（大阪府）	聖路加国際大学教育センター 生涯教育部 〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号 Tel & Fax：03-5550-2436（直通） （申込 HP 準備中、6月中旬以降に参加申し込みを承ります）
	14日	日本生殖看護学会 （第12回） 「明日から実践に活かそ う！！生殖看護の声」	大阪国際会議場 グランキューブ大阪 イベントホール3F （大阪府）	医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック 〒577-0012 東大阪市長田東1丁目1-14 TEL：06-4308-8824(代)内線221 FAX：06-4308-8814 E-mail：jsfn12@ivfosaka.com
10月	12日	日本性科学学会（第34回） 「生殖と性」	岡山大学医学部 鹿田キャンパス J-Hall （岡山県岡山市）	〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3-4F TEL/FAX：03-3868-3853
	25日～26日	日本遺伝看護学会 （第13回） 「遺伝看護、さらなる挑 戦－共に考え、共に歩み 続ける」	琉球大学医学部 臨床講義棟（沖縄県）	日本遺伝看護学会第13回学術大会事務局 〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地 琉球大学医学部保健学科小児看護学分野内 TEL：098-895-1287・1267 FAX：098-895-1287 E-mail：tsujinok @ eve.u-ryukyuu.ac.jp

## 第12回日本生殖看護学会学術集会のご案内

明日からの実践に生かそう!! 生殖看護の声

2014年9月14日(日) 開催 大阪国際会議場 グランキューブ大阪

今、生殖医療現場で働く看護職の皆様は、「これでいいのか? 本当にいいのか?」と日々、患者支援について模索していませんか? 生殖看護における看護の悩みを共有し、生殖看護の役割や支援方法について学び、明日から今まで以上のよりよい看護を展開したい、つなげたいとの決意を込めてテーマを「明日からの実践に生かそう!! 生殖看護の声」と掲げました。

今年度は日本 IVF 学会と同日開催のため、他職種の方にも生殖看護に興味を持って頂き、活発な討議ができるようプログラムを予定しています。皆様の参加をお待ちしております。

(会長 小松原 千暁)

### ☆学術集会概要

9:00~	開会挨拶・オリエンテーション 会長講演「生殖看護の現状」不妊症看護認定看護師 小松原千暁 基調講演「実践家としての活動と今後のビジョン」不妊症看護認定看護師 村上貴美子 一般演題 口演発表
12:10~	ランチョンセミナー 「年齢と治療の効率を考慮した不妊治療と看護支援 ~米国の看護師より~」 NY 大学 Langone Medical Center Christina De Rosa Obin
13:10~	総会 一般演題 示説発表 シンポジウム「チーム医療! それぞれの立場から生殖看護を考える」 学術集会優秀賞授賞式
~17:00	閉会式

☆参加申し込み方法 ※事前申し込みは8月31日までをお願いします。

事前登録: 会費6,000円 非会員7,000円 学生(大学院生・研修生は除く) 無料

当日参加: 会費7,000円 非会員8,000円 学生(大学院生・研修生は除く) 無料

振込先: りそな銀行東大阪支店 口座番号: 普通0194306

口座名: 第12回日本生殖看護学会学術集会

振込欄: ①氏名②区分(会員/非会員) ③プログラム・抄録集の発送先ご住所④お電話番号を明記ください。

※学生はメールにて氏名・学校名・メールアドレス・お電話番号の情報を記載し、学会事務局へお申込み下さい。学会当日は、学生証をご提示ください。尚、抄録集は会場にて千円にて販売します。

☆ランチョンセミナー 先着250名に同時通訳レシーバーと昼食をご用意します。

当日は、学会参加の事前登録者へ優先的に整理券を配布致しますので、事前登録手続きをして頂く事をお勧め致します。予定数を上回った場合はご用意できかねる事をご了承ください。

☆お問い合わせ先 第12回日本生殖看護学会学術集会事務局(担当: 澤辺麻衣子、森分純子)

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

TEL 06-4308-8824(代表) 内線221 FAX 06-4308-8814(代表)

学術集会 HP アドレス: <http://www.jsfn12.jp/> E-mail: [jsfn12@ivfosaka.com](mailto:jsfn12@ivfosaka.com)

## 第1回 日本生殖看護学会 将来検討委員会勉強会のお知らせ

事例検討会やカンファレンスに向けて事例報告作成にあたり、困ったことはありませんか。看護の視点に則った事例報告はチーム内で看護実践を共有し、他職種に伝える有効な手段であります。また、臨床実践を検討することでクリニカルクエストが明らかになり研究の起点となることもあります。

今回の勉強会は主に不妊症看護や生殖看護の実践に携わる看護職を対象に、事例報告を書くときの形式、作成方法、活用といった基本的な事項を学びます。

皆様、お誘いあわせの上ふるってご参加ください。

将来検討委員会

【テーマ】『事例報告の書き方（基本編）』 講師：米田 昭子氏

山梨県立大学看護学部看護学研究科 准教授（慢性疾患専門看護師）

【日時】2014年8月10日（日）13:00～15:00（受付 12:30～）

【場所】聖路加国際大学 本館3階301教室（東京都中央区明石町10番1号）

【参加費】会員無料 非会員 1500円 【定員】60名（先着）

【交通のご案内】会場までの道のりは聖路加国際大学 HP をご参照ください。

<http://www.slcn.ac.jp/access/index.html>

※誠に恐れ入りますが、お車でのご来校はご遠慮頂いております

【お申し込み方法】「氏名、ご所属、会員番号、連絡先電話、メールアドレスを明記の上、

8月1日（金）までにメールもしくはFAXでお申し込みください。

【お申込み・お問い合わせ先】

日本生殖看護学会将来検討委員会（担当：川元美里）

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学 教育センター

e-mail : jsfnshorai@gmail.com TEL : 03-6226-6384 FAX : 03-6226-6379

## 2014年関西地区勉強会「妊孕力を高める食事と食事指導」について

去る3月16日（日）に大阪市北区にて関西地区勉強会を開催しました。「妊孕力を高める食事と食事指導」というテーマで、宮本恭子先生（管理栄養士・食養士）を講師に迎え、参加者70人が集い学びました。講義では、同じ野菜でも根・実・葉・皮・花・種で栄養も体に与える影響も違うこと、精製品の害、主食と副食のバランス、効果的な食事指導のポイント、その他、多くの知識を得ることができました。「何を食べると体に良いのか？」という方法論を模索することにとどまらず、「正しい食とは何か」という根本的なところを押さえる必要性を学びました。



「食を正す」ことにより体を構成している細胞ひとつひとつが健康になり、結果、健康な体が作られる、そして、生殖能力の向上・拡大、健康な妊娠・出産の維持につながるという基礎知識を講義にて習得し、グループワークでは、看護として患者へ何を展開し提供してゆけるか、情報提供の方法や、有効な食事指導を行うための工夫について話し合いを深めました。

不妊症看護に携わっていない産科領域の助産師にも多く参加して頂き、不妊症と不妊症看護への理解を深めていただく場ともなりました。「お互いが理解し合い連携して女性のライフサイクルに関わってゆく必要性を感じた」というコメントも頂き有意義な勉強会となりました。

担当：不妊症看護認定看護師 西尾京子（医療法人愛生会 扇町レディースクリニック）

場所・日時：2014年3月16日（日）午後2～5時 クロスウェーブ梅田大研修室

【参加者の資格】：看護学会会員（17%）、不妊症認定看護師（1%）、胚培養士（5%）、栄養士（1%）、鍼灸師（4%）

【所属施設】：総合病院病棟・外来（49%）、不妊クリニック（37%）、産婦人科クリニック（4%）、産婦人科病院（8%）、その他（2%）

【所属地区】：大阪府内（71%）、大阪府外の関西地区（20%）、関西以外（9%：愛知、東京、島根、広島）



**【参加者の平均評価（5段階）】**

勉強会全体に対して：楽しかった（4.5）、学びがあった（4.6）、得るものがあった（4.6）、期待以上だった（4.1）  
今後、食に関する看護的介入に取り組む事への意欲：（4.5）

**各地区で開催する勉強会の支援**

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。なお、日本生殖看護学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp/study/index.html>）に、勉強会の企画・運営に関するマニュアルを掲載しました。ぜひご覧ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。よろしくお願い申し上げます。

**【連絡先】** 日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野

TEL：043-226-2410、FAX：043-226-2414 E-mail：mori@faculty.chiba-u.jp

**勉強会等の運営費の助成**

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、平成25年度の勉強会助成の募集を以下のように行っております。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

なお、日本生殖看護学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp/study/josei.html>）に、助成の申請に関する詳細と申請書類等が掲載されていますのでご覧ください。

**日本生殖看護学勉強会等助成要項****【助成の趣旨】**

日本生殖看護学会員による生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成し、日本生殖看護学会員サービスに寄与し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

**【助成の対象】**

会員個人または共同で開催する勉強会等企画者を対象とする。

**【応募資格】**

1. 勉強会企画代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同で企画する場合は、代表者以外の共同企画者も勉強会開催時に本学会会員である者。
3. 勉強会予算案を日本生殖看護学会員と非会員の参加費に格差をつけ、作成していること。

**【助成金】**

助成金は勉強会の企画1件につき1万円を限度とし、当該年度の助成は3件までとする。

**【助成期間】**

平成25年9月1日～平成26年8月31日までの約1年間とする。

**【応募方法】**

1. 学会所定の勉強会助成申請書に必要事項を記載し、1部を学会教育推進委員会宛にメールで申請する。  
メールの件名は「日本生殖看護学会勉強会助成申請」とする。
2. 応募受付期間：平成25年4月1日～平成26年6月30日、ただし、勉強会開催の2か月前までに応募する。
3. 申込先：日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美  
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野  
TEL：043-226-2410、FAX：043-226-2414 E-mail：mori@faculty.chiba-u.jp

**【選考及び助成の決定】**

教育推進委員会において選考の上、応募から1か月以内に、応募者にメールで通知する。

**【助成金の使途】**

勉強会の企画・運営に必要な講師料、物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

**【勉強会の成果の報告】**

1. 助成を受けた者は、勉強会終了後、参加人数および成果、収支決算を教育推進委員会にメールで報告する。
2. 勉強会の内容および成果は、ニュースレターに掲載する。

もし不妊看護の現場で行き詰ったら…

## 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろう?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

不妊症看護認定看護師  
リレー寄稿

No.  
16

### 「認定活動の中で私が心がけていること」

関西医科大学附属枚方病院 馬場 真有美

私の勤務している関西医科大学附属枚方病院は特定機能病院の認可を受け、大阪府の癌拠点病院、総合周産期母子医療センターなどの役割を担っています。また私の勤務する女性診療科では生殖医療を行っています。昨年の年間採卵数は103件、凍結融解胚移植78件と徐々に増加の傾向です。生殖医療を希望する女性の年齢は年々高齢化しており、昨年度は平均年齢38.9歳でした。

私は不妊症看護認定看護師として不妊治療中の女性にかかわっていますが、40歳を超えてから治療を希望するご夫婦や、治療途中で夫婦の病気により治療を断念しなければならないケース、病気を抱えながら不妊治療を受ける方など様々なケースがあります。不妊治療中の女性のつらい気持ちに寄り添いながら信頼関係を築き、ご夫婦が主体性を持って治療に挑めるようサポートを心がけています。ご夫婦が妊娠や治療を希望された時点から新しい家族関係を築くための準備段階ととらえ、夫婦の絆が深められるようかかわっていくことが重要と考えています。それは妊娠中から出産後の育児を見据えてということもありますが、子どもを授からなかった場合でもご夫婦が将来お互いを大切なパートナーと確信できるようにと願うからです。具体的には看護外来として奇数週の土曜日にも治療説明や不妊相談を行っています。普段来院できない夫にはこの機会に妻の気持ちを代弁し、夫自身の治療への思いを聞き、治療中の妻のサポートを依頼しています。また、これから不妊治療を希望する方や治療初期段階の方に向け「未妊セミナー」を開催しています。セミナーでは産婦人科と泌尿器外科の医師からは双方の不妊検査や治療について、看護師からは生活上の注意点・夫婦のコミュニケーションの大切さについてお話しています。

治療中から治療後妊娠・出産までの過程を支援できること、がん治療前に凍結保存した胚をがん治療終了後胚移植に来られたご夫婦の元気な姿がみられること、不妊治療を終結した後も定期的な検診でその後の健康状態をサポートできることが私の励みです。同期生の川畑仁美さんが今年度より看護師長として小児科病棟に勤務しています。周産期から小児期まで継続して支援でき、病児の親の気持ちに寄り添いながら育児について一緒に考えることができることも当院の強みです。

不妊症看護の難しさを感じる毎日ですが、自分に何ができるかを考え、女性のライフサイクルに合わせ幅広くサポートできるようこれからも努力していきたいと思っています。

## ニュースレターの電子化に関するアンケート 集計結果と今後の方針

広報委員会 上澤 悦子、實崎 美奈

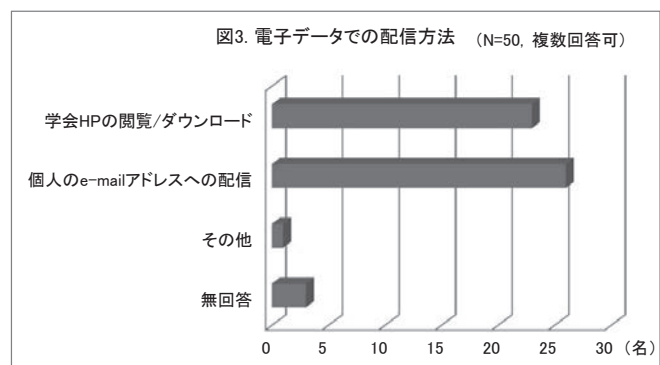
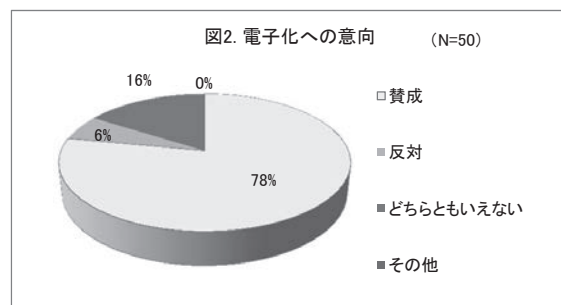
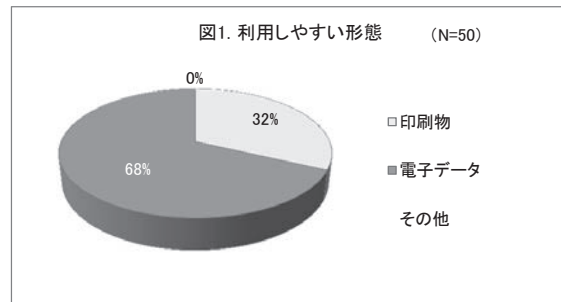
本学会ニュースレターは、会員への重要な広報活動であり、会員サービスとなっています。紙媒体での配信方法は郵送費等が必要です。そこで、ニュースレター配信方法に関する会員の意見をまとめるために、2013年11月、学会員を対象に「ニュースレターの電子化に関するアンケート」を318名に配布し、50名からの回答（回収率：15.9%）を得ました。

集計結果では、利用しやすいニュースレター形態として、電子ファイルが34名（68%）、印刷物が16名（32%）でした（図1）。電子データでのニュースレターの配信は、賛成が39名（78%）、反対が3名（6%）、どちらともいえないが8名（16%）でした（図2）。電子データでのニュースレターの配信方法（複数回答可）は、学会HPの閲覧/ダウンロードが23名（46%）、個人のe-mailアドレスへの配信が26名（52%）であり、その他の意見として「HPにアップしたことを個人のアドレスに知らせる」がありました（図3）。自由記述には、「紙媒体の送付は手間がかかり非効率であっても、確実に受け取ることができる」「わざわざPCを開いて見ない」「電子化したほうが整理しやすい」「電子化は経費削減につながり、その経費が勉強会等の資金に当てられればと思う」「できれば両方あったほうがよい。毎回、HPを見るのは忘れてしまいそう」「個人のアドレスはセキュリティに問題が生じる。HPにアップしたことを会員に知らせないと積極的に閲覧しなくなる」などがありました。

回収率15.9%での意見の集約ではありますが、ニュースレターの形態や配信方法を電子化することに関して約7割の会員が賛成と回答していました。一方、今まで通りの紙媒体を希望する会員はどちらともいえないという意見も含めると2割程度おり、紙媒体での配信が会員サービスにつながっていることも自由記述から伺われました。

電子配信するためには個人アドレスの管理などクリアしなければならないことを踏まえ、当面は紙媒体での配信を継続しつつ、1年以上経過したニュースレターは学会HPに掲載されていることを会員へ周知徹底して経過をみていくこととします。

また今後、会員専用のサイトやメンバーリストの構築の進捗状態にあわせ、電子会員と紙会員の区別などのアンケートで挙げた意見を参考に、ニュースレターの電子化については引き続き検討していきたいと思えます。アンケートに御協力いただきありがとうございますとございました。





## 理事会報告

### 第2回臨時(書面)理事会

日時：2014年2月13日(木)

場所：書面による。

出席者：野澤、上澤、森明、實崎、森恵、橋村、菅野、村本、有森、清水、遠藤、岸田

#### 【審議事項】

1. 入会審査：3名の入会を承認。
2. 学術集会での表彰について：設定することに賛成8、不賛成1、白票1の回答があり、次回の理事会(第2回理事会)で懸念事項を含め、改めて検討する決定がなされた。
3. 学会の広報・取材依頼について：学会の課題や役割について意見交換がなされた。

### 第2回理事会

日時：2014年3月28日(金)

場所：聖路加国際大学 本館5階506室

出席者：野澤、上澤、森明、實崎、橋村、菅野、村本、清水、岸田、川元(有森代理)、小松原(オブザーバー)

#### 【報告事項】

1. 第12回日本生殖看護学会学術集会の日程・テーマ・広報活動などの進捗状況を報告。
2. 理事長：本学会が全国体外受精実施施設完全ガイドブックへ掲載された旨を報告。
3. 広報委員会：広報委員会活動計画、NLNo.38号の発行計画、NLの電子化に関する意向調査結果を報告。
4. 教育推進委員会：島根県と共催の山陰地区勉強会企

画の予定を報告。

5. 編集委員会：学会誌掲載の投稿論文の査読・編集作業の進捗状況について、今後、学術集会抄録集を1部国立国会図書館に送付する旨を報告。
6. 総務：会員管理、ホームページ管理、新たに作成した学会案内リーフレット等の総務の活動状況を報告。
7. 看保連対応WG:理事への看保連対応WG冊子の送付、看保連年会費について報告。
8. 健やか親子21推進協議会WG:健やか親子21推進協議会総会での説明について報告。
9. 在宅自己注射マニュアル作成WG:4月に調査予定である旨の報告。

#### 【審議事項】

1. 入会審査：5名の入会を承認。
2. 将来検討委員会企画の勉強会の趣旨・内容・対象・募集方法などの案を承認。
3. 第12回学術集会での演題表彰：表彰の位置づけ・審査基準について審議され、承認。
4. 第13回および第14回学術集会会長について審議。
5. 本学会が日本カウンセリング学会の機関会員として入会することを決定。
6. 看護系大学の母性看護・助産学担当教員宛てに入会案内文・リーフレット・入会申込書・学術集会の案内文を送付することを決定。
7. 日本生殖看護学会の勉強会企画の案内文を承認。
8. 今後の理事会スケジュール：第3回・第4回理事会開催日程を決定。

## 事務局からのお知らせ

1. 第12回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
2. 2012年度より、学会の年会費は8,000円になっております。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 異動・転居された方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌の送付はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。
4. 会員数326名(平成26年4月30日現在)です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

### 編集後記

特定不妊治療費助成事業の制度が改正され、臨床で受ける相談内容等にも変化がみられていることと思います。また、生殖補助医療に関する法制化も現実味を帯びてきており、看護のあり方について再検討を要する可能性もあります。学術集会等の機会に意見交換を行うことで、よりよい看護のあり方を考えていきましょう。

広報委員：上澤悦子、實崎美奈

### 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号：00170-2-333414

加入者名：日本生殖看護学会